

◆平成 25 年度活動報告 男女共同参画の意識啓発と情報発信◆

【KIT 男女共同参画推進センターセミナー実施一覧】

回	開催日	テーマ	参加者数
第 2 回	9 月 19 日 (木)	仕事と育児・介護の両立	約 60 名
第 3 回	10 月 18 日 (金)	理系の仕事とキャリアデザイン	約 50 名
第 4 回	11 月 8 日 (金)	未来を創る理系キャリア	約 70 名

KIT 男女共同参画推進センター第 2 回セミナー

男女がともにひとりひとりの仕事と生活の上に、その能力を最大限発揮できる環境づくりを目指し、家事・育児・介護などワークライフバランスの側面からアプローチするセミナーを開催しました。育児・介護経験者の男性講師をお招きしました。

日 時：平成 25 年 9 月 19 日 (木) 14：00～17：00

場 所：京都工芸繊維大学 60 周年記念館 2 階 大セミナー室

テーマ：「仕事と育児・介護の両立 カジダン・イクメン・ケアメン—体験しています！」

<プログラム>

- 開会挨拶 KIT 男女共同参画推進センター長 (副学長) 森迫 清貴
- 講 演 株式会社東レ経営研究所研究部長 渥美 由喜 氏
「男性にとってのワークライフバランス—体験して広がる世界」
- 講 演 和歌山大学教育学部副学部長 富田 晃彦 氏
「イクメン体験で得た仕事能力—想像・共感・信頼」
- 講師と語ろう！

意見交換会 (交流会) 京都工芸繊維大学 60 周年記念館



講師：渥美由喜氏



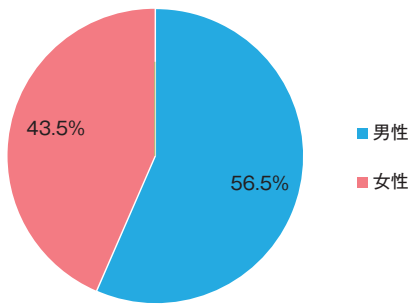
講師：富田晃彦氏



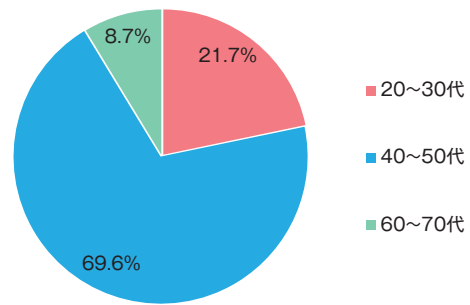
<参加者アンケート結果>

※回収率 40.4%

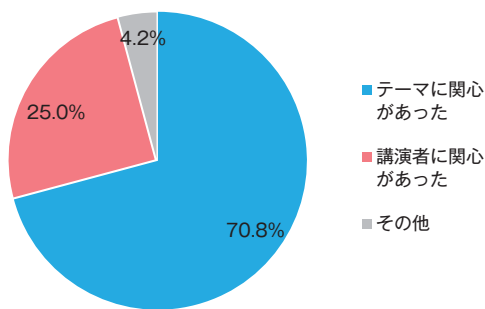
あなたの性別



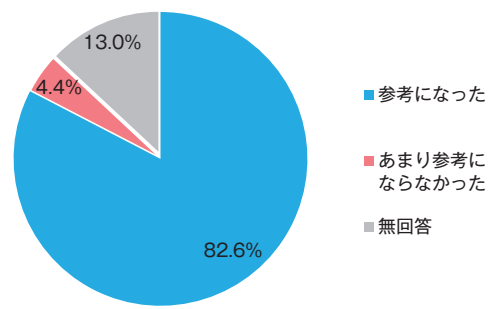
あなたの年齢



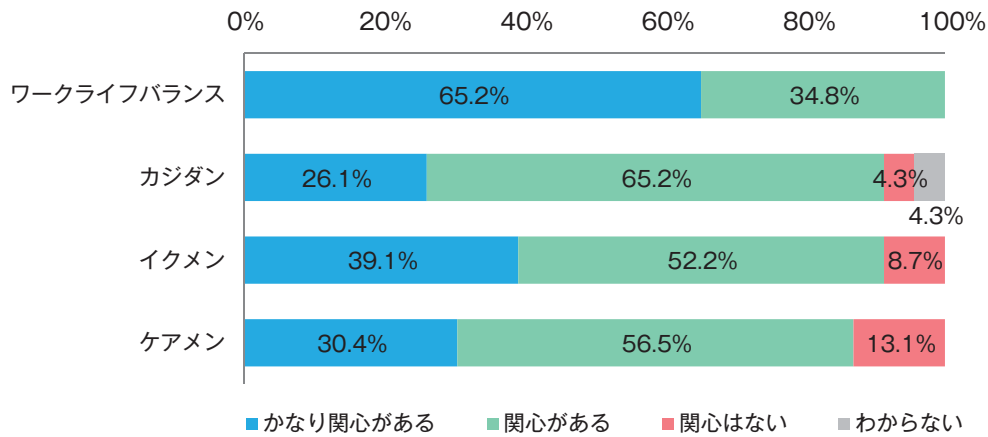
本日のセミナーに参加された動機



本日のセミナーについて



関心の度合いを教えてください



自由記述（一部抜粋編集）

- ・渥美先生のお話で、若い学生さんたちにもベテランの先生方にも人生の質を上げるすばらしい種がまかれたと思います。
- ・男性教員にはとても役に立つ内容だと思う（富田さん）。地域（ナナメの関係）とのつながりについてとても考えさせられた（渥美さん）。
- ・先生方のお話は、体験に基づいた素晴らしいお話でした。国、企業、地域、家庭、どの社会においても、なかなか男女共同参画が進んでいないと感じています。なぜでしょう???

KIT 男女共同参画推進センター第3回セミナー

本学で、平成22年度より実施しています「男女共同参画社会を実現するための教育プログラム」との共同企画で、理系の仕事やキャリアデザイン、仕事と生活の両立（ワークライフバランス）をテーマに開催しました。企業や大学で働く先輩女性の実経験を伺いました。

日 時：平成25年10月18日（金）16：00～18：00

場 所：京都工芸繊維大学60周年記念館 2階 大セミナー室

テーマ：「理系の仕事とキャリアデザイン—経験者に聞く！」

<プログラム>

- 開会挨拶 KIT 男女共同参画推進センター長（副学長） 森迫 清貴
- 講演Ⅰ コクヨファニチャー株式会社 幸森 史氏
「企業で働くこと—理系のキャリアデザインとライフサイクル」
- 講演Ⅱ 本学大学院工芸科学研究科電子システム工学部門教授 大柴 小枝子氏
「研究と生活の両立—男性も女性も自分を生かすキャリアとは」
- 閉会挨拶 本学大学院工芸科学研究科生体分子工学部門教授 亀井 加恵子

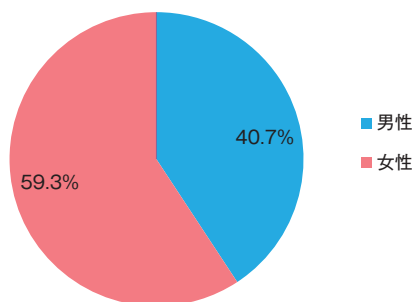
意見交換会（交流会） 京都工芸繊維大学 60周年記念館



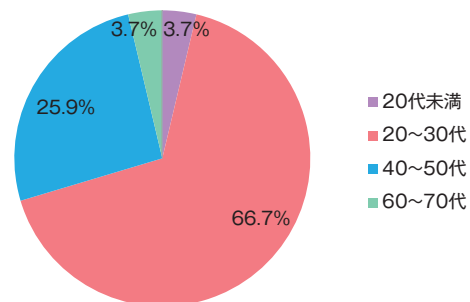
<参加者アンケート結果>

※回収率 58.7%

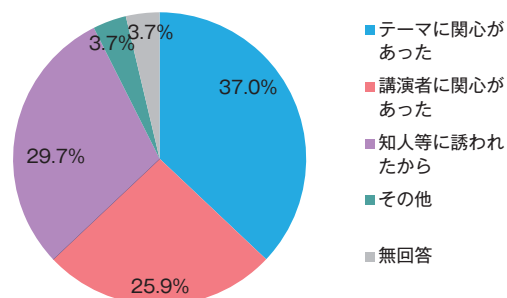
あなたの性別



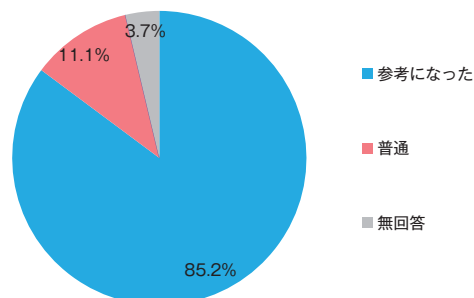
あなたの年齢



本日のセミナーに参加された動機



本日のセミナーについて



自由記述（一部抜粋編集）

- ・実際に仕事と子育てをされているお二人の話が聞けて、今後の自分の生活を改めて考えてみようと思いました。
- ・幸森氏のご講演は実体験にもとづいたもので、学生の方々にインパクトのあるお話であり、参考になりました。スーパーマザーでなく、「普通」の働く女性の意見で共感しました。
- ・とても参考になりました。私は女性で大学院に進む予定なので、子どものことを考えると本当に時間がないことに気づかされました
- ・具体的なお話と体系的なお話を聞くことができ、多様な視点と共に、身近なりアリティを感じることができました。

KIT 男女共同参画推進センター第4回セミナー

平成22年度より実施しています「男女共同参画社会を実現するための教育プログラム」との共同企画で、理系女性の働き方、生き方からキャリア形成や男女共同参画について考えてみました。

日 時：平成25年11月8日（金）16：00～17：30

場 所：京都工芸繊維大学60周年記念館 2階 大セミナー室

テーマ：「未来を創る理系キャリアー私の選択」

<プログラム>

○開会挨拶 KIT 男女共同参画推進センター長（副学長） 森迫 清貴

○講 演 株式会社独立総合研究所取締役 青山 千春 氏

「未来を創る理系キャリアー私の選択」

○閉会挨拶 本学大学院工芸科学研究科生体分子工学部門教授 亀井 加恵子

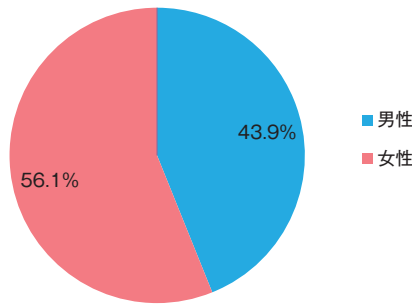
意見交換会（交流会） 京都工芸繊維大学 60周年記念館



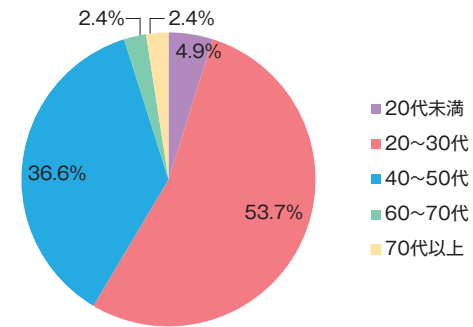
<参加者アンケート結果>

※回収率 63.1%

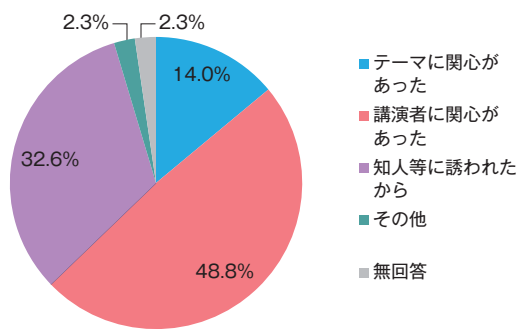
あなたの性別



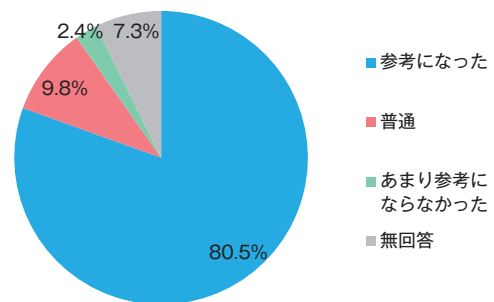
あなたの年齢



本日のセミナーに参加された動機



本日のセミナーについて



自由記述（一部抜粋編集）

- ・子育てのブランクを感じさせないで、すごく夢を与えてくれるような、女性に特にためになる話だった。
- ・青山先生の本を拝見させて頂き、驚きとともにどこか締めていたことに対し、克！を入れてもらったのでした。これから生きていくにあたり、目の前に素敵な女性がしっかり歩いているんだ私も頑張ろうと思います。
- ・信念をもったパワフルな生き方と仕事への熱い気持ちが伝わってきました。

活動報告

●女性教員との交流会を開催しました

平成25年5月31日(金)、本学での男女共同参画推進や学生に対する意識啓発、キャリア形成などについて、KIT交流サロンで女性教員の方々と意見交換を行いました。なかなか雰囲気の中で充実した語りができました。さらに交流の輪を広げていきたいと思います。



KIT交流サロンの様子

●ホームページに新たな情報を掲載しました

センターHPの「女性研究者支援」のページに、女性研究者や若手研究者、大学院生向けの研究公募情報と女性研究者支援や男女共同参画推進に関する他大学や関係機関のイベント情報を新たに掲載しました。どうぞお立ちください。

URL <http://www.sankaku.kit.ac.jp/>

↑ トップページ

↓ 女性研究者支援 → 「研究公募・助成」

→ 「学外セミナー・イベント」



●講演会・研修会参加報告

女性研究者支援や男女共同参画推進に関する講演会や研修会に、センターのコーディネータが参加しました。

- ・「男女共同参画推進のための講演会」(滋賀医科大学 H25.4.17)
- ・「女性活躍推進フォーラム」(滋賀県 H25.5.20)
- ・「介護と仕事の両立のために企業ができること」(京都市 H25.6.5)
- ・「女性相談研修—男女共同参画をめざす相談事業のあり方—」(大阪府 H25.6.6)

インフォメーション

セミナー予告

今秋、男女共同参画推進センター主催のセミナーを開催いたします。(9/19、10/18、11/8開催予定)
イクメン・ケアメンをテーマにしたもの、また理系のキャリア形成をテーマにしたものなど、企業・大学・研究所などで活躍の方々を講師にお迎えします。詳細は、チラシやホームページなどで案内いたします。どうぞご期待ください。

職員紹介

センターに、平成25年4月より久米事務補佐が配属されました。教職員のみならずの学生と生活の両立のお手伝いをさせていただきます。よろしくお願ひします。

～応援します！研究と生活の両立～ ◇京都市立芸術大学 KIT 男女共同参画推進センター◇
住所 〒606-8585 京都市左京区松ヶ崎本町 京都工芸繊維大学2号館南棟1階134号室
TEL・FAX 075-724-7757 (内線 7757)
Eメール sankaku@kit.ac.jp ホームページ <http://www.sankaku.kit.ac.jp/>



～応援します！研究と生活の両立～

NEWS LETTER

KIT 男女共同参画推進センター通信

第2号
2013.07

6月24日(月)、文部科学省・板東久美子高等教育局長(現 文部科学審議官)をお迎えして、本学「KIT交流サロン」にて、女性研究者懇談会を開催しました。



板東久美子氏(文部科学省高等教育局長)

本学から6名の女性教員と男女共同参画推進センターのセンター長、コーディネータが出席し、女性研究者の活躍推進や職員、育児・介護期の研究支援制度、学生のキャリア形成など幅広い見地から意見交換を行いました。

懇談会としての本学の環境や男子学生、男性教員の男女共同参画意識について、板東局長から伺いかけがありました。

本学が平成22年度から実施している「男女共同参画教育プログラム」を教員が紹介し、男子学生の関心が高いが、教員の参加者はほぼ同じ顔触れであるという課題が出されました。そのため今年度は、男性教員長から説明いたしました。

研究支援員制度は、育児・介護との両立に10名の教員の方に利用いただき、その中には男性教員もいること、研究支援員として雇用されている大学院生のキャリア形成にもつながることなど、有用な制度であり、助かっているとの声が教員側からありました。

今後、男性女性教員ともに介護の問題が大きく、「介護は先が見えないだけに精神的にもサポートが必要であり、相談体制があれば心強い」との板東局長のお話を受けて、気軽に相談室を使ってもらえる環境づくりと教員の方々の普段からの関係づくりが課題であり、努力していきたいとコーディネータから発言がありました。

また、教員からは子育て、介護に関しては自治体など公的サービスの充実も見逃せないとの意見があり、板東局長からは、「自治体にもよりますが、ファミリーサポートなど近年は様々な制度の充実が図られている。大学の支援制度と自治体や民間のサービスを組み合わせ使い、育児期・介護期を乗り切ってもらいたい」とアドバイスをいただきました。

限られた時間ではありましたが、板東局長、女性教員のみならず華やかな意見交換を行う有意義な機会となりました。今後の本学での男女共同参画推進に役立てていきたいと思います。



懇談会の様子
(※開催当時の所属、役職等が掲載しております。)

研究と生活の両立を支援するセンターの事業を紹介します

両立支援制度の紹介

研究支援員制度

概要

出産・育児や介護期にある女性研究者や配偶者が研究職の男性研究者の研究活動を支援するため、大学院生等を研究支援員として配置することによって、ライフイベント期における研究活動の継続・進展を図る制度です。研究者を支援するとともに、研究支援員のキャリア形成にもつなげていくものです。

利用資格

- ・本学の常勤研究者であって、以下に掲げるいずれかの項目を満たしている方。
 - ・妊娠中の女性研究者、または妊娠中の配偶者(研究職に限る)を有する男性研究者
 - ・女性研究者、または配偶者(研究職に限る)を有する男性研究者で、小学校6年生までの子どもを養育中の方
 - ・女性研究者、または配偶者(研究職に限る)を有する男性研究者で、市区町村から要介護の認定を受けている親族(同居、別居は問わず)を介護している方
 - ・その他、上記に準ずる理由により研究活動を行う時間が確保できない方

研究支援員の業務内容

研究者の実験・調査の補助、データの入力・分析、学会資料や報告書類の作成、その他研究業務についての補助など。

研究支援員対象者

- ・大学院博士前期課程修了者、大学院博士後期課程修了者
- ・大学院生又は学部学生
- ・大学、研究機関等において、相当期間、研究活動に従事している又はしていた者

平成24年度利用実績

【利用教員数】10名(男性2名、女性8名) 【利用事由】育児等8名 介護2名

制度利用者の声(一例)

教員

研究資料の整理及び文献調査などの業務をおこなってほしい、研究が捗った

支援員(院生等)

研究結果だけでなく、調査や分析の進め方、経過についても知ることで、研究について深く理解できるようになった

子育て中で研究に割ける時間が限られる中、支援員の配置で効率的に研究を進めることができた

支援員の仕事を通じて、担当以外の分野にも取り組む機会ができた、自分の研究方法に役立った

支援員の補助のおかげで、論文の執筆やシンポジウムを滞りなく実施できた

学業に役立つだけでなく、社会人としての基本、時間管理、自己管理の意識を身につけることができた

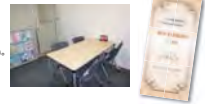
ご利用、申し込みについては、KIT男女共同参画推進センターへお問い合わせください。

*研究支援員制度の利用案内や提出書類については、センターHPにも掲載しております。

両立支援相談のご案内

KIT男女共同参画推進センターのコーディネータが、出産・育児・介護などライフイベント上の悩みや相談に応じています。仕事を休んでいく上で困ったこと、悩んでいること、気がかりなことなどお気軽にご相談ください。両立支援に関する様々な制度や情報提供もしています。本学の教職員、女子学生の方が利用できます。相談に関しては、守秘義務を順守いたします。

場 所：2号館南棟1階134号室
相談時間：月～金曜日(祝日除く)9:00～16:30
申込み：センターHPの申し込みフォーム、メールまたは電話でご連絡ください。
電 話：075-724-7757(内線7757)
メール：sankaku@kit.ac.jp URL <http://www.sankaku.kit.ac.jp/>



KIT交流サロンのご案内

女性教職員や女子学生の交流の場として、研究(仕事)や育児・介護の情報交換の場として、相談やグループワーク、ランチミーティングなどにご利用ください。

育児や介護、ワークライフバランスに関する図書やDVDを置いてあります。交流サロンでご利用いただけます。また、貸し出しも行っていきます。男性教職員の方もご利用いただけます。

○場 所：2号館南棟1階133号室
○利用時間：月～金曜日(祝日除く)8:30～17:15
ご利用については、KIT男女共同参画推進センターへご連絡ください。



【男女共同参画の啓発】

「本職にサテュース 研究者 かがやき続ける女性キャリアを目指して」
「理系のお嬢さんは苦手ですか?」
「こころからの処方箋『働く女性のライフイベント』」
「子育てハッピーアドバイス」

【私たちのワークライフバランス】
「Eコマース・ネット・リサーチ 働く」
仕事と子育ての両立、これまでもっと女性が活躍できることを目指している。仕事をしながらの両立の両方を両立に両立を両立した。(4/15掲載)

【働きざかり 男が介護するとき】

「ケアの社会学」 など
*図書リストはセンターHPに掲載しております。

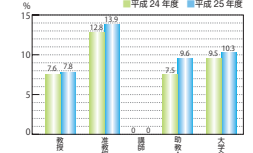
【子育てハッピーアドバイス】(明倫 大 二)
子育ての悩み・悩みが具体的に解決した。がんばってしまいがちな自分が、もっと楽しく育児できるようになりました。(5/15掲載)

女性研究者のデータ

本学の女性研究者のデータを紹介します。

女性研究者の職名別比率

職名	平成24年度		平成25年度	
	人数	比率(%)	人数	比率(%)
教授	132	10	129	10
准教授	109	14	108	15
講師	1	0	2	0
助教・助手	53	4	52	5
大学合計	295	9.5	291	10.3



活動報告

●ランチミーティングを開催しました

平成25年8月8日(木)と8月20日(火)のお昼休みに、「KIT交流サロン」にて女性教員の方々とランチミーティングを行いました。

研究のこと、学生のこと、大学の歴史、研究環境、家庭のこと、地域のこと、男女の特性、趣味のことなど幅広い話が飛び交いました。和やかな雰囲気の中、女性同士で気兼ねな会話が楽しめました。初めて顔を合わせる先生方について、学系・分野を超えて交流のきっかけとなりました。また、このような機会を望む声が寄せられました。



ランチミーティングの様子

●センターの図書案内～イクメン・ケアメン特集～

【イクメンで行こう！育児も仕事も充実させる生き方】(著者：山崎 啓、日本経済新聞出版社)
育児経験が人財力を高める。仕事力も高まる。経験者やスーパーイクメンで、楽しさも苦労も全部分かちます。そこには思わぬ発見あり!

【働きざかり 男が介護するとき】(著者：藤原 孝、日経文庫)
介護者の5人にひとり男性だといふ。にもかかわらず、我がこととして考えたことのある男性は少ない。男性介護者の本音、エピソードが今後の取り組みに活かせる貴重な本(要注)

【男性の育児休業 社員のニーズ、会社のメリット】(著者：藤原 孝、日経文庫)
これまで男性社員が子育てに悩むことを想定してこなかった。しかし、家事や子育てに関わりたくて希望する男性に比べて、従来の雇用や仕組みは新たなストレスに。単に少子化対策や個人の理想にするのではなく、会社にとってのメリットを生かした新たな視点を開拓。

【バコロスの母に会いに行く】(著者：藤原 孝、日経文庫)
62歳の妻を病気で、認知症の母との可哀しくも切ない日々。介護に関わる方々の共感を呼び、自費出版から書店のランキング入りするほどの話題性。人には人の思いがある。そして、人には人の介護の心があふれる。それが生きか。2013年11月、読書も中心に読まれる。

～応援します! 研究と生活の両立～
NEWS LETTER
第3号
2013.11
KIT 男女共同参画推進センター通信

KIT男女共同参画推進センター第2回セミナーを開催しました。
「仕事と育児・介護の両立 カジダン・イクメン・ケアメン体験しています!」

平成25年9月19日(木)午後、本学60周年記念館2階大セミナー室にて、KIT男女共同参画推進センター第2回セミナーを開催いたしました。
男女がともにひとりの仕事と生活の上、その能力を最大限発揮できる環境づくりを目指し、家事・育児・介護などワークライフバランスの側面からアプローチいたします。
森迫センター長の挨拶に続き、株式会社東洋経済研究所社長の進藤由喜氏より、「男性にとってもワークライフバランス体験して広がる世界」と題して、ご講演を行いました。



講師：進藤 由喜氏 講師：森迫 秀雄氏

育児・介護と仕事の両立(ワークライフバランス)に関する社会的背景や誰もが見る現実を自身の2度の育児体験や介護の経験からわかりやすく、身近なできごととして、お話していただきました。男女共同参画やワークライフバランスは、価値観や仕事と生活の二者択一ではなく、バランスが大切で、ワークの土台がライフであり、質の高い生活が質の高い仕事につながり、メリハリのある仕事と生活の余裕につながることも、再立の意義、ヒントをいただきました。

体験はさき、「イクメン体験で得た仕事能力-想像・共感・信頼」と題して、和歌山大学教育学部副学部長の番田亮氏より、ご講演いただきました。大学の研究者として、3ヶ月間育児体験を取った経緯や周りの反応などを具体的に話していただきました。また、育児を経験して、時間管理能力やコミュニケーション能力、チームワークなどを学び、研究・教育の充実につながった経験も伺いました。その後、参加者の男子学生や女性研究者からの質問を受けて、両講師とともに仕事と生活の両立について、さらに話を深めました。ワークライフバランスや男女共同参画推進は、個人的なことにとどまらず、仕事や組織の活性化や業務の向上につながっていくことをあらためて認識いたしました。参加者より、「若い学生さん達にもボランティアの先生方にも人生の質を上げる種が蒔かれたと思います」、「リアリティ満載で参考になるものが多く、楽しく時間を過ごせました」、「男性教員にとっても役立つ内容だった」、「なかなか男女共同参画が進んでいないのはなぜでしょう」、「自分の価値観が新たに広がった」など、多くのご意見、ご感想が寄せられました。



インフォメーション

○内閣府男女共同参画局より「平成25年版男女共同参画白書」が公表されました。
特長：「成長戦略の中核である女性の活躍に向けて」 ※センターでご覧いただけます。
○内閣府男女共同参画局ホームページに「男性にとっても男女共同参画コラム」が掲載されました。日常生活など、親しみやすい視点から、男女共同参画の気づきやヒントになるお話が掲載されています。

- 【執筆一覧】
- ・「中高年男性にとってもワークライフバランス」土境 昭雄氏(ニッセイ基礎研究所 主任研究員)
 - ・「これからの時代のイクメンが考えていくべきこと」進藤 由喜氏(株式会社東洋経済研究所 研究部長)
 - ・「しなやかな男」のすすめ 西岡 俊介氏(オフィスよしかお シニア産業カウンセラー)
 - ・「男女共同参画の男性にとってもメリット」山田 昌弘氏(中央大学学芸部 教授)

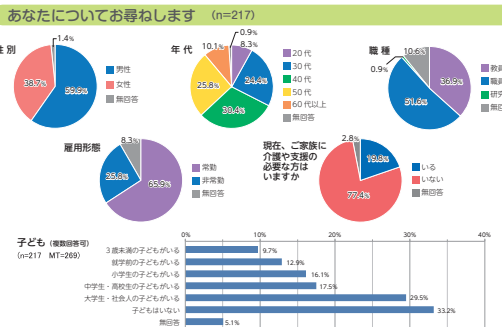
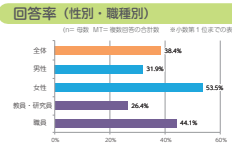
内閣府男女共同参画局ホームページ「男性にとっても男女共同参画」
http://www.gender.go.jp/policy/men_danjo/index.html

～応援します! 研究と生活の両立～ ◇京都工芸繊維大学 KIT 男女共同参画推進センター◇
住所 〒606-8585 京都市左京区松ヶ崎橋上町 京都工芸繊維大学2号館南棟1階134号室
TEL・FAX 075-724-7757(内線7757)
Eメール sankaku@kit.ac.jp ホームページ <http://www.sankaku.kit.ac.jp/>

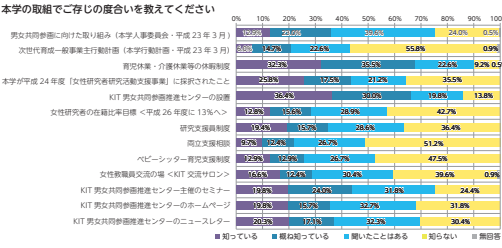
男女共同参画に関する意識調査の報告(概要)

本学での男女共同参画を推進し、支援制度の充実と今後の環境整備につなげるために、男女共同参画に関する意識調査を実施しました。集計結果の概要をご報告します。

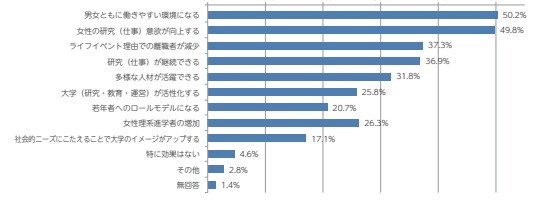
対象：本学の教職員
配布数：565名
調査方法：無記名アンケート方式
実施期間：平成25年7月1日(月)～7月31日(水)
回収数：217名
回収率：38.4%



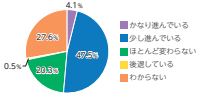
男女共同参画についてお尋ねします (n=217)



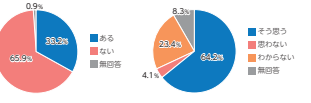
本学で男女共同参画を推進することはどのような効果があると思いますか。(複数回答可) (n=217 MT=661)



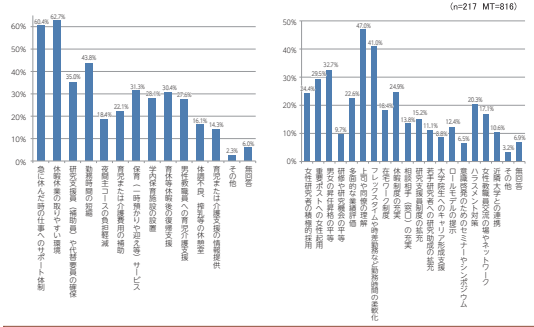
本学の男女共同参画の進捗度についてどう思いますか



育児または介護中も仕事(研究)を継続したいと思うかどうか



育児または介護中にもどのような支援が必要だと思いますか。(複数回答可) (n=217 MT=855)



○集計結果の詳細は、センターホームページに掲載しています。http://www.sankaku.kit.ac.jp/report/data.html

活動報告

●平成25年度「地(知)の拠点整備事業」への参画

文部科学省平成25年度「地(知)の拠点整備事業」(大学COO事業)に本学が採択され、その中の地域貢献加速化プロジェクトに、女性教員の方々と本センターが参画することになりました。

小中高生を対象とした教育活動<KITわくわくキャンパスフェスタ>等に、女性教員の方々と特に女子中高生向けのサイエンス体験教室などを企画実施します。理系分野に対する興味関心を喚起し、女性教員、女子学生との交流を通してロールモデルを示し、理系・リケジョの裾野拡大を目指していきます。

企画運営には本学の女子学生、女子大学院生の方にも参画してもらい、先輩リケジョのアイデアを盛り込んでいきます。アイデアミーティングを「KIT交流サロン」で活発に行っています。



ミーティングのひとコマ

●センターの図書案内～理系キャリア・リケジョ特集～

「素敵サイエンス 研究者編 かがやき続ける女性キャリアを目指して」
(橋本裕子・嶋山広美 編著・近代科学社)

「理系白書 この国を静かに支える人たち」
(毎日新聞科学部 著・講談社)

「講演会・研修会参加報告」
女性研究者が語る理系のススメ。最近に進んで良かったこと。理系に進むための、女子大生ならではの準備生活の紹介など、筆者自身の経験を通して「理系っていいな!」って思えるかも。読者意識の視点にもなる一冊。

●講演会・研修会参加報告

○女性研究者支援や男女共同参画推進に関する講演会や研修会に参加しました。

- 「女性研究者研究活動支援事業合同シンポジウム2013」(文部科学省 H25.11.11)
- 「日中韓女性科学技術者フォーラム」(日本大学校 H25.11.12)
- 「シンポジウム タイバシティの更なる発展に向けて」(東京理科大学 H25.11.16)
- 「平成25年度大学等における男女共同参画推進セミナー」(国立女性教育会館 H25.11.28～29)
- 「タイバシティマニフェスト 女性の活躍を企業に力にする」(京都府経営者協会 H25.12.13)

○女性研究者支援等について意見交換を行いました。

- 名古屋工業大学 人事課副課長・男女共同参画推進室担当(株) (来学 H25.12.18)

「しなやかにプロフェッショナル 一科学者・技術者をめざすあなたへ」
(日本女性技術者フォーラム編著委員会 編著・新水社)

「科学者たちの奇妙な日常」
(松下祥子 著・日本経済新聞出版)

「科学者ってどんな人?どんな生活をしているの?科学者・研究者の知られざる生活や仕事やキャリアを伺います。～ふとこの世に生れたら科学者のワンダーランドへ～ 論文執筆から学生、就職先、子育て事情まで、理系人生の諸問題を語り合おう!」



～応援します! 研究と生活の両立～

NEWS LETTER

第4号
2014.02

KIT 男女共同参画推進センター通信

文部科学省「女性研究者研究活動支援事業合同シンポジウム2013 一世界で活躍できる理系女性研究者の育成～」に参加しました。

平成25年11月11日(月)、東京・T K P市谷カナルパレスセンターにて、文部科学省主催の「女性研究者研究活動支援事業合同シンポジウム2013」が開催されました。

「世界で活躍できる理系女性研究者の育成」をテーマに、全国から約80の大学・機関が参加し、ポスターディスカッション、分科会、講演、パネルディスカッションなどを行いました。

まず、文部科学省より「女性研究者研究活動支援事業」についての説明があり、続いて、「国際的に評価される研究とキャリアをめざして」、大学共同利用機関法人情報・システム研究機構理事の郷通子氏の基調講演が行われました。

次に、「参加することと継続すること—そのためのしなやか」と題して、東京都市大学学長の北澤宏一氏の特別講演があり、その後、午前中に6グループに分かれて行った分科会の発表が行われました。

最後に、「世界で活躍できる理系女性研究者の育成に向けて、今、研究・教育機関に求められるものは何か」と題して、パネリスト：郷通子氏(大学共同利用機関法人情報・システム研究機構理事)、北澤宏一氏(東京都市大学学長)、相馬



シンポジウムのポスター

芳枝氏(神戸大学特別顧問、日本化学会フェロー)、水田祥代氏(九州大学名誉教授、福岡学術大学理事)、小鏡香椎子氏(独立行政法人科学技術振興機構経営企画部男女共同参画主監)、文部科学省科学技術・学術政策局人材政策課長、モデレーター：山村康子氏(独立行政法人科学技術振興機構科学技術システム改革事業プログラム主幹)によるパネルディスカッションが行われました。女性研究者支援の取り組みや課題、今後の展開について議論を深める時間となりました。



ポスターディスカッションでの発表

インフォメーション

○内閣府 総合情報誌「共同参画」のご紹介 <http://www.gender.go.jp/>
男女共同参画に関する国、地方公共団体、民間等の取組が紹介されています。 ※センターまでお問い合わせください。

- 12月号 特集：科学技術分野における女性の活躍促進
- 1月号 特集：国立大学における男女共同参画の取組

～応援します! 研究と生活の両立～ ◇◇京都工芸繊維大学 KIT 男女共同参画推進センター◇◇
住所 〒606-8585 京都市左京区松ヶ崎上町 京都工芸繊維大学 2号館南棟1階134号室
TEL・FAX 075-724-7757 (内線 7757)
Eメール sankaku@kit.ac.jp ホームページ <http://www.sankaku.kit.ac.jp/>

KIT男女共同参画推進センター第3回セミナーを開催しました。

「理系の仕事とキャリアデザイン—経験者に聞く!」

平成25年10月18日(金)午後、本学60周年記念館2階大セミナー室にて、KIT 男女共同参画推進センター第3回セミナーを開催しました。

このセミナーは、本学で平成22年度より実施しています「男女共同参画社会を実現するための教育プログラム」との共同企画によるものです。

理系の仕事とキャリアデザイン、仕事と生活の両立(ワークライフバランス)をテーマに、企業と大学で働く先輩女性の実体験を伺いました。

森迫センター長の開会の挨拶に続き、本学卒業生でココファニー株式会社にお勤めの幸森 史氏より、「企業で働くこと—理系のキャリアデザインとライフサイクル」と題して、ご講演を行っていただきました。

ご自身の仕事、結婚、出産、育児の実体験に基づき、ライフプランについて、今から考えること、できることを具体的にご提示いただきました。また、仕事をしながらも女性特有の身体のサイクルを気遣う大切さを改めて教えていただきました。

引き続き、「研究と仕事の両立—男性も女性も自分を生かすキャリア」と題して、本学工学部科学技術電子システム工学部門教授の大塚小枝子氏にご講演いただきました。

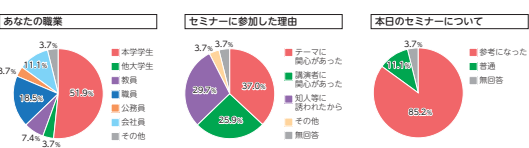
そもそも「仕事(ワーク)」とは何か、「生活(ライフ)」とは何か、またワークライフバランスが目指される背景や効果、企業を例にお話していただきました。

最後に、参加者と子育てや介護、復職支援、パートナーとの関係づくりなどについて、活発な意見交換を行いました。



理系のキャリアデザインということで学生の方の参加も多い中、「ライフプランを考えることが大切なのだ分かりました」や「今後の自分の生活を改めて考えてみようと思いました」、「スーパーマザーではなく、「普通」の働く女性の意見に共感しました」など、ワークライフバランス視点での感想が多数寄せられました。

アンケート結果 ※アンケート回収率 58.7%



KIT男女共同参画推進センター第4回セミナーを開催しました。

「未来を創る理系キャリア—私の選択」



平成25年11月8日(金)午後、本学60周年記念館2階大セミナー室にて、KIT 男女共同参画推進センター第4回セミナーを開催しました。

このセミナーは、本学で平成22年度より実施しています「男女共同参画社会を実現するための教育プログラム」との共同企画によるものです。

森迫センター長の開会の挨拶に続き、株式会社独立総合研究所取締役で、今話題のメタンハイドレート探査研究の第一人者でもある青山千春氏より、「未来を創る理系キャリア—私の選択」と題して、ご講演を行っていただきました。

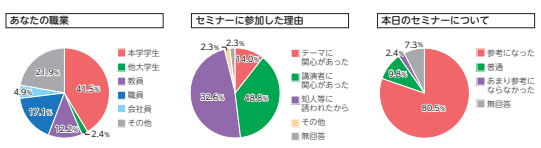
国立大学の航海コースで、「初」の女子学生であったこと、結婚・育児で研究を中断したこと、夢を諦めずに大学院に再入学したこと、45歳で新卒の就職活動など初めてづくし、驚きづくしのキャリアヒストリーから、メタンハイドレートとの出会い(発見)と調査研究、その実用に向けての精力的な研究活動について、お話ししていただきました。

夢をもつこと、研究を続けること、仕事と生活を両立することなど人生の岐路においての決断や生き方について講師の方と意見交換を行い、それぞれのキャリアについて考えるまたとない機会となりました。

参加者からは「女性と男性とがではなく、人間としてしっかり持っている方が自然とまわりを変えていくのかなど感じました」、「個人個人がすぐくれている点を認め合い、足りない点を助け合える社会になれば良いと思います」、「目の前に素敵な女性ばかり歩いてるんだ。私も頑張ろうと思います」、「信念をもったパワフルな生き方と仕事への熱い気持ちが伝わってきた」など、多数の感想が寄せられました。



アンケート結果 ※アンケート回収率 63.1%



◆平成 25 年度活動報告 女性教職員のネットワーク構築◆

【学内交流会等実施一覧】

会名	開催日	開催場所	参加者数
交流会	5月31日(金)	KIT 交流サロン	8名
懇談会	6月24日(月)	KIT 交流サロン	15名
ランチミーティング	8月8日(木)	KIT 交流サロン	7名
	8月20日(火)	KIT 交流サロン	14名

女性教員交流会

平成 25 年 5 月 31 日（金）、本学での男女共同参画推進や学生に対する意識啓発、キャリア形成などについて、「KIT 交流サロン」で女性教員の方々と意見交換を行いました。なごやかな雰囲気の中で充実した語り合いができました。

女性研究者懇談会

平成 25 年 6 月 24 日（月）、文部科学省・板東久美子高等教育局長をお迎えして、「KIT 交流サロン」にて、女性研究者懇談会を開催しました。

本学から 6 名の女性教員と男女共同参画推進センターのセンター長、コーディネータが出席し、女性研究者の活躍推進や増員、育児・介護期の研究支援員制度、学生のキャリア形成など幅広い見地から意見交換を行いました。

働く場としての本学の環境や男子学生、男性教職員の男女共同参画意識について、板東局長から問いかけがありました。

本学が平成 22 年度から実施している「男女共同参画教育プログラム」を教員が紹介し、男子学生の関心は高いが、教員の参加者はほぼ同じ顔触れであるという課題が出されました。そのため今年度は、男性教職員向けに育児や介護を経験している男性講師を招いての講演会を企画し、意識啓発に結びつけたい旨をセンター長から説明いたしました。

研究支援員制度は、育児・介護との両立に 10 名の教員の方に利用いただき、その中には男性教員もいること、研究支援員として雇用されている大学院生のキャリア形成にもつながることなど、有用な制度であり、効果があるとの声が教員側からありました。

今後、男性女性教員ともに介護の問題は大きく、「介護は先が見えないだけに精神的にもサポートが必要であり、相談体制があれば心強い」との板東局長のお話を受けて、気軽に相談室を使ってもらえる環境づくりと教員の方々の普段からの関係づくりに努めていきたいとコーディネータから発言がありました。また、板東局長からは、「自治体にもよるが、ファミリーサポートなど近年は様々な公的制度の充実が図られている。大学の支援制度と自治体や民間のサービスも組み合わせ使い、育児期・介護期を乗り切ってほしい」とアドバイスをいただきました。限られた時間ではありましたが、板東局長、女性教員のみならず率直な意見交換を行う有意義な機会となりました。



板東高等教育局長との懇談会

ランチミーティング

平成25年8月8日（木）と8月20日（火）のお昼休みに、「KIT 交流サロン」にて女性教員の方々とランチミーティングを行いました。

研究のこと、学生のこと、大学の歴史、研究環境、家庭のこと、地域のこと、男女の特性、趣味のことなど幅広い話が飛び交いました。和やかな雰囲気の中、女性同士で気軽な会話が楽しめました。初めて顔を合わせる先生方もいて、学系・分野を超えての交流のきっかけとなりました。

また、このような機会を望む声が寄せられました。



KIT 交流サロン利用状況（平成25年度）

○利用のべ人数：306人

女性	273人	男性	33人		
教職員	134人	学生	162人	その他	10人

○主な利用内容：

交流会	5件
ミーティング	25件
相談	6件
図書閲覧	5件
ランチ休憩	3件
その他	10件

◆平成 25 年度活動報告 理系女子の裾野拡大◆

平成 25 年度「地（知）の拠点整備事業」地域貢献加速化プロジェクトへ参画

文部科学省「地（知）の拠点整備事業」（大学COC事業）に本学が採択され、その中の地域貢献加速化プロジェクトに、女性教員の方々と本センターが参画することになりました。小中高生を対象とした理系進路選択推進活動、特に女子中高生向けのサイエンス体験教室などを企画実施します。理系分野に対する興味関心を喚起し、女性教員、女子学生との交流を通してロールモデルを示し、理系女子（リケジョ）の裾野拡大を目指していきます。企画運営には本学の女子学生、女子大学院生の方々にも協力してもらい、先輩リケジョのアイデアを盛り込んでいきます。「KIT 交流サロン」で、リケジョ拡大企画ミーティングを活発に行っています。



<主な活動>

- ・ 12月17日
担当女性教員ミーティング
- ・ 1月16日 訪問調査
- ・ 1月23日～3月
女子学生による企画ミーティング
- ・ 3月3日
女子学生による企画報告会

女性研究者（ロールモデル）の紹介

KIT 男女共同参画推進センター HP では、本学の女性研究者を紹介しています。

本学広報誌「KIT・NEWS」の『研究室探訪』の中から、女性研究者の多彩な研究内容や研究スタイル、キャリア経験、未来への可能性、若い方々へのメッセージなどをお伝えしています。

○センター HP <http://www.sankaku.kit.ac.jp/>

トップページ ⇒ 学生キャリア支援

⇒ 女性研究者の紹介

